

国立大学病院における「患者図書室」の現状と課題

折井 匡

信州大学医学部図書館

【調査の目的】

大学病院をはじめとする総合病院等において、患者サービスの一環として病院内に、情報提供の場となる患者図書室が設置されている。医療・健康情報を求めて来た患者・家族など（以下「利用者」と言う）に対して、患者図書室より十分な情報提供がなされているか調査した。調査結果を基に、十分な情報提供ができない患者図書室であっても、どうすれば利用者が求める情報を提供できるか研究した。

【調査の方法】

42 国立大学病院の患者図書室を対象としたアンケート調査を実施。2007 年に発表された先行調査を参考に、・提供する図書の選定方法・提供資料の入手方法・相談のあった利用者への対応方法・医学部図書館や公共図書館との連携などを調べた。アンケート結果から、興味ある事例として、島根大学・鳥取大学・名古屋大学の各病院患者図書室を抽出し、実地調査を行った。

また対応する各大学の医学部図書館に患者図書室との連携状況も調査した。

【調査結果と考察】

42 の国立大学の 46 大学病院にアンケートを行い 40 大学病院から回答を得た。

（1）調査結果

- ①患者図書室がある大学病院は増えている（61%→70%）が、医療情報を積極的に提供している図書室は少なく、小説などの娯楽図書を置いてある図書室が多い。入院患者にだけ貸出・閲覧可の図書室が増え、誰にでも貸出している図書室は減少した。（45%→39%）
- ②恒常的に予算措置されている図書室は増加したが、63%は予算がない。
- ③司書が関与している図書室は 25%と少なく、ボランティアが運営している図書室が多い。また、無人の患者図書室は 29%に及んでいる。
- ④大学の医学部図書館と何らかの連携しているのは 18%で 82%が実施していない。
- ⑤公共図書館との連携は 79%が未実施だが、積極的に交流している患者図書室もある。

（2）考察

- ①一部を除く多くの患者図書室は、十分な医療・健康情報の提供がなされておらず、入院患者向けの娯楽図書の提供が多い。また名ばかりの患者図書室も存在している。
- ②多くの患者図書室は、利用者への情報提供が今後も困難であり、病院から利用者への情報提供は、わかりやすい Web での提供等が良いと思われる。
- ③患者図書室を調査する中で、公共図書館では積極的に「医療・健康情報」を収集し市民へ提供していることが判明した。今後は公共図書館との連携が必要と思われる。

※本研究は JSPS 科研費(奨励研究)18H00008 の助成を受けたものである。